

## 「かかりつけ医の制度化」の空騒ぎはなんだったのか？ －半年間の論争の検証

日医生涯教育講座 1.5単位 (CC12:地域医療)

昨年6月の閣議決定「骨太方針2022」に「かかりつけ医機能が発揮される制度整備を行う」との一文が盛り込まれて以降、「日本経済新聞」や一部の研究者・ジャーナリスト・指導的プライマリケア医はそれを「かかりつけ医の制度化」と読み替え・誤読し、なんらかの制度化が行われると主張しました。彼らの一部はイギリス流の登録制・人頭払い制の導入が必要・必至と述べ、多くの診療所医師の不安をかき立てました。彼らの多くは、それにより医療費が抑制できるとも期待していました。

それに対して私は、プライマリケアの拡充で医療費は抑制できない、むしろ増加するとの過去20年間の国際的実証研究の成果を紹介すると共に、「かかりつけ医の制度化」は閣議決定されていないこと、イギリス型のかかりつけ医の登録制・人頭払い制導入がありえない理由を述べ、地域包括診療料等の拡充が「かかりつけ医機能」強化の出発点となると主張しました。

昨年、12月16日に公表された「全世代型社会保障構築会議報告書」は、「かかりつけ医の活用については、医療機関、患者それぞれの手挙げ方式、すなわち、患者がかかりつけ医機能を担う医療機関を選択できる方式とする」こと等を提案しました。日本医師会もこれを支持しており、今後はこの方向で、地に足のついた改革が進められることが期待されます。

本講演では、「かかりつけ医の制度化」をめぐる「空騒ぎ」について、この間、『日本医事新報』や『文化連情報』に発表した拙論を用いながら、検証します。(講師談)

講師

日本福祉大学 名誉教授 **二木立氏**

(にきりゅう氏)

日本福祉大学名誉教授。1947年生まれ・75歳。医学博士(東京大学)、博士(社会福祉学)(日本福祉大学)。1972年東京医科歯科大学医学部卒業。東京・代々木病院で脳卒中早期リハビリテーションの診療と臨床研究に従事。1985年日本福祉大学社会福祉学部教授。社会福祉学部長、大学院委員長、副学長・常任理事、学長等を歴任し、2018年3月定年退職。日本医療経営学会理事、日本医師会総合政策研究機構構成員研究員、日本ソーシャルワーク教育学校連盟相談役。現在の専門は医療経済・政策学で、医療・地域包括ケア政策の評価・予測、批判・提言を行っている。著者は、『地域包括ケアと地域医療連携』(2015)、『コロナ危機後の医療・社会保障改革』(2020)、『2020年代初頭の医療・社会保障』(2022)等、多数。『文化連情報』に「二木教授の医療時評」を、『日本医事新報』に「深層を読む・真相を解く」を長期連載中。2005年以降、毎月「二木立の医療経済・政策学ニューズレター」を配信している(<http://www.inhcc.org/jp/research/news/niki/>)。



日時

2023年**2月22日**(水) 19:00 ~ 20:30

対象

医師および医療スタッフ (事前申込制・参加無料)

申込

申込は2/20(月)17時まで

本講演会は、Zoomウェビナーを使用してライブ配信で行います。

右のQRコードをスマホ等で読み取って必要事項を入力の上お申込みください。

QRコードからのお申込みができない場合は、お電話でも受付いたします。



<http://bit.ly/3HYf3ad>



LINE公式アカウント  
友だち募集中!

主催: 一般社団法人熊本県保険医協会

TEL: 096-385-3330

Email: [kumamoto-hok@doc-net.or.jp](mailto:kumamoto-hok@doc-net.or.jp)

後援: 公益社団法人熊本県医師会